



森林ふれあい情報

平成29年3月
第42号

林野庁中部森林管理局
木曾森林ふれあい推進センター
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151
E-mail:kiso-fureai@maff.go.jp

中部森林技術技術交流発表会 局長優秀賞受賞

1月31日から2月1日の2日間、中部森林管理局において、平成28年度中部森林技術交流発表会が開催され、中部森林管理局内及び管内の林業関係の高等学校、大学等から25題の発表がありました。

当センターでは「木曾谷支援の取組について」と題して、平成26年9月に発生した御嶽山の噴火等により観光客が減少し、発生から3年目となる現在でも観光客は噴火前の75%と回復しておらず、木曾谷の観光産業へ深刻な影響を与えていることから、木曾谷への復興支援を目的として、「木曾川の下流域の中京圏との交流イベント」、「木曾谷復興支援ツアー」、「木曾地域の観光協会等と連携したパズルラリーの実施」により観光客誘致の一助となる取組について発表しました。



発表会の様子

発表内容の、「木曾川の下流域の中京圏との交流イベント」では、長野県や地元町村等の関係機関との協力による、森林ボランティア活動へのフィールドの提供、技術指導などを行っていること、

「木曾谷の復興支援ツアー」では、木曾谷の豊かな自然や水資源への理解を深めてもらうことを目的に、平成26年度から開催しており、これまでに木曾谷国有林の木曾ヒノキ林や名古屋市の水瓶である王滝村内の牧尾ダムの見学等を行っていること、また、平成28年度から新たな取組として、木曾路の遊歩道を散策することにより、森林の大切さへの理解と来訪者数の増加を促し、参加者による新たな観光名所の発見やパズル完成による達成感の獲得を狙った「木曾路トレッキングパズルラリー」について発表しました。



新島中部森林管理局長（左）と
発表者の大石自然再生指導官（右）

（パズルラリーの詳細については「ふれあい情報第40号」を参考にして下さい。）

これまで実施した木曾谷支援の各種取組は、多数の参加者を得て一定の成果が上がり、今年度から着手したパズルラリーは、参加者や協賛団体等からの継続の強い要望が寄せら

れています。

また、パズルラリーの張り板には「木曾の間伐材使用」と銘打って間伐材の利用促進への想いを込めています。

まとめとして、木曾谷に新たな来訪者を呼び込むためには、既存の観光施設と国有林との一体的利用を行い、観光客の増加を図るための効果的な企画を検討し、木曾谷支援の一助となるように、引き続き地元町村、観光協会やNPO団体などと連携を図りながら実施し、木曾谷支援に努めて行く旨の発表を行いました。

発表結果は地域連携による活動等が評価され、局長優秀賞をいただくことができました。

研究・技術開発を行う三者協定を締結

平成29年2月16日、中部森林管理局において「森林・林業及び木材利用に関する研究・技術開発等における連携と協力に関する協定」が森林総合研究所沢田理事長、信州大学農学部藤田学部長と新島中部森林管理局長との間で、調印・締結されました。

この協定は、森林総合研究所、信州大学農学部及び中部森林管理局がそれぞれ実施する研究・事業、各種イベント等において連携・協力することにより、地域の森林・林業及び木材利用の課題解決並びに成果の活用に取り組み、地域の振興を図ることを目的として締結されました。

三者はこれまでも、国有林をフィールドとした研究・技術開発や指導・助言等の連携を個別に行っていましたが、今回の協定により個々の研究・技術開発等を包括的に取組むことができるとともに、当センターを「木曾悠久の森フィールドセンター」として位置付け、森林総合研究所や信州大学などの研究機関が木曾地方の国有林で研究・技術開発を実施する場合は各署との連絡調整機能として対応することとしています。

今後は木曾谷の国有林で得られた研究・技術開発の成果を広く情報発信することにより木曾地域の振興に繋がればと考えています。



前席：森林総合研究所沢田理事長（左側）
信州大学農学部藤田学部長（中央）
新島中部森林管理局長（右側）

【人事異動】10月1日付

転入：自然再生指導官 大石 政弘（中部森林管理局 企画調整課より）